

2022年度 自己評価報告書

学校法人釧路キリスト教学園
幼稚園型認定こども園湖畔幼稚園

本園の教育目的

《神さまの愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。》

神さまが愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神さまのかたちに造られた私たちには神さまの限りない愛が注がれています。その神さまの愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神さまの愛のもとで保育者や友だちと喜びを共にし、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にす、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

本園の教育目標

- ・子どもが、自分自身が大切な存在として受け入れられていることを感じとり、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができるようになる。
- ・子どもが、イエスさまを身近な存在として知ることを通して、見えない神さまの恵みと導きへの信頼感を与えられ、イエスさまと共に、日々を歩もうとする思いを与えられる。
- ・子どもが、自分と他の人との違いを認めると共に、違いを認めつつ一緒に生活するための努力ができるようになる。
- ・子どもが、こころを動かし、探求し、判断し、想像力をもち、創造的に様々な事柄に関わるようになる。
- ・子どもが、私たちの生きる自然や世界を神さまの恵みとして受けとめ、自然や世界の事柄に関心を持ち、自分たちのできることを考え、行うようになる。
- ・子どもが、してはいけないことをしようとする思いが自分の中にあることに気づき、そのような思いに抵抗することができるようになる。

今年度重点的に取り組む内容

2022年度年主題 『つながって～今、わたしを生きる～』

年主題聖句 『主がすべての災いを遠ざけてあなたを見守りあなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。』

詩編 121 篇 7～8 節

・今を生きている『わたし』を見つめ、神様から与えられている様々な『つながり』を感謝しながら、心と心をつなげ合って共に育ちあう日々でありたい。神様がかけがえのない一人として『わたし』を愛し、大切にしてくださることを感じながら、子どもたちが楽しく安心した園生活を送ることができるよう努める。ひとつひとつの出会いに神さまが働いてくださることに感謝し、友だちや先生、保護者や地域の方などと豊かにつながりあって、共に喜び合うことのできる保育を目指す。

・新園舎が完成し、幼稚園型認定こども園のスタートとなる。子どもたちが安全・安心できる環境を整え、より幼い子どもたちへの配慮を十分に行う。また、子育て支援事業の働き（未就園児クラス、預かり保育、園開放）を充実させる。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から災害や緊急事態時に備えてきた。さらに危機管理マニュアルを見直し、教職員間で共通理解をし、意識の向上に努める。

・場所や時間、人数などを分散させた保育を行っているが学年・クラス毎の保育を組み合わせ異年齢との活動を工夫して計画する。それぞれが十分に関わって子どもたち同士の豊かな関係性が育つように配慮する。

・ユネスコスクールのテーマ『未来の力～心と体のすくすくプロジェクト』の3年目の取り組みにおいて、未来を担う子どもたちの心とからだの豊かな成育のための質の高い学びや、園における子どもたちの健康で安全のための環境づくりを行う。特に5月には完成する園庭が、豊かな遊びの基地となるように計画する。

教職員による評価項目に対する自己評価

※（）内は前年度数値

評価項目	取り組み状況	評価
I. 保育の計画性	<p>・認定こども園化によりシフト制になったことで教師会の時間が十分にもてなかったことと、また、新任教師がいなかったこともあり、改めて教育要領を学ぶ機会を持てなかった。次年度は教育要領及びキリスト教保育の学びを行い、自分たちの保育を振り返る研修の時をもつ。</p> <p>・日々の園生活の中で、園の教育理念や教育方針が深く根付き、保育計画の中にさまざまな形で取り入れられている。なかなか全体では集まることのできない教師会での話し合いも事前に内容を把握できるようにしたり、意見を出しておいたりして共通理解に努めた。保育の質を高めるためにも、保育のエピソードから意見を出し合って幼児理解を深めたい。また、日誌や月案における保育計画を充実させる。</p>	3.5 (3.6)
II. 保育の在り方・幼児への対応	<p>・園バス園児置き去り事故の報道をきっかけに、教師会での話し合いを重ね、普段の保育体制を改めて見直し、園児の出欠確認や園バスの乗降確認などを確実にできるよ</p> <p>うに整えた。</p> <p>・各行事の開催の仕方について、今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めな</p>	3.7 (3.6)

	<p>がらの検討となったが、新園舎内での保護者を招いての行事についても工夫して予定通り開催することができた。行事を通して保護者が子どもたちの成長の様子を知る機会となり、保護者との信頼関係も深めることができた。コロナ対策を行なう日々の中でこれまで、当然のように行ってきたことも見直し、子どもたちの主体的で楽しめる取り組みを行ったことで、子どもたちの満足感・達成感の高いものとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクール『未来の力～心と体のすくすくプロジェクト』3年目の取り組みの最終年度である。子どもたちの運動遊びを通じた体づくりや教師の保育の質向上について総括することができた。今後の保育においても質を維持させるように努める。 ・課題であった危機管理マニュアルの見直しを行い、近年の課題となる内容においても確認し、様々な状況に対処できるものとして整備した。また、教師間で内容を確認し合うことができた。 	
Ⅲ. 保育者としての資質・能力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の虐待ニュースを受け、保育に対する姿勢を見直す機会をもち、子どもたちの人権擁護の視点から子どもを尊重する保育について改めて意識を高めた。 ・各クラス、学年単位の活動を中心としてきた感染症対策も感染状況を見ながら調整して生活した。教師間の連携を大切にし、連絡を密にとり、意見を発信しやすいように工夫した。 ・キリストの体である一人ひとりが、それぞれの得意なことを活かしながら、互いに補い合い、認め合い、チームとしての保育の質を高めるように努めている。 ・保育には教師自身の人間性が重要であるという認識のもと、日頃から文化や芸術に触れたり、広くアンテナを広げて興味関心を持ったりして、自己研鑽に励む努力をしている。 	3.8 (3.8)
Ⅳ. 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から子どもたちの様子など共有し合い、子どもたちや各家庭へ配慮をしながら教職員全体で保護者への丁寧な声掛けを心がけている。子どもたちの園での様子など、連絡ノート、お便り、ブログ、また、面談や電話などで保護者に伝達し連絡を密にするよう努め、保護者との信頼関係を築くようにしている。 ・保護者からの相談や質問なども報告し合い、丁寧に対応し、細やかな対応を行った。 	3.9 (3.9)
Ⅴ. 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎に続き園庭が完成し、徐々に整備されてきた遊具で楽しんで遊ぶ様子が見られた。園庭内に草木などの自然物は少ないが、園庭内での遊びをより豊かな場となるように工夫し、冬は斜面を使ったダイナミックなソリ滑りを楽しむことができた。 ・老健たいようの利用者さんとのリモートによるふれあいが継続され、学期ごとに誕生会のアーチの飾りつけをしていただいたり、手作りのクリスマスプレゼントのやり取りをしたりして、心を通わせることができ、子ども達にとっても優しい気持ちやいたわりの気持ちが育っている。 	3.1 (2.9)
Ⅵ. 研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> ・シフト制により全員が同じ研修を受けることは難しくなったが、オンラインやリモートにより様々なジャンルの30以上の研修に各教師が個々に積極的に参加することができた。研修内容を全体で共有するように努め、保育の質向上や教師力のアップを図ることができた。 	3.1 (3.1)

評価基準 4：あてはまる 3：大体あてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない

次年度以降に取り組む課題

年主題は『ともにつむぎだす～希望の中で～』

年主題聖句『キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。』エフェソの信徒への手紙2章17節

・年主題『ともにつむぎだす～希望の中で～』をもとに、イエス様が与えてくださる希望の中で、これまで、園が守り続けてきたことやこれまでの保育で気づいたこと、また、これから大切にしていきたいことなど、さまざまな糸をよって新しく希望をもって紡ぎ出す保育を目指す。これまで通り日々の礼拝を大切にし、縦の糸としての神さまとのつながりを生活の中心に置き、聖書のことばを聴き賛美の声を豊かにするように努める。

・コロナ禍3年間の生活の中で様々な制限を受けたことで、異年齢のお友だち、保護者や地域の方など、周りの人との関わりが希薄となり、子どもたちの健やかな成長のために周囲の人との関わりを深めていくことがより求められている。特に園内においては異年齢の関わり合いを深め、小さい子への思いやりやいたわりの心、また、大きい子へのあこがれや挑戦する気持ちなどを十分に感じながら過ごす一年でありたい。これらのことから今年度の保育の年間テーマを『いっしょに』とし、子どもたち同士が相互に関わり合いながら、興味関心を広げ、わくわく感が生まれる子ども主導の保育を大切にする。

・ユネスコスクールの活動テーマ『わくわく946～ちびっこ探検隊～』を合言葉として、自分たちの身の回りに目を向け、地域にたくさん出かけて行き、自分たちの住んでいる釧路について理解を深めて子どもたちの視点で興味や関心を広げつつ、様々な発見にわくわくする経験を深めていく。

・保護者との信頼関係をより深め、それぞれの園児のその時の姿を保護者とともに共有し、共に子育てを担っていく。保育参観の回数を増やし、保護者が園に足を運ぶことのできる機会を増やす。

・各学年の教師同士でドキュメンテーション研修などの園内研修をもち、子どもに対する共通理解を深め、個々の保育力のアップを図る。教職員同士が互いに刺激し合い、保育のアイデアを得たり、保育の課題について相談し合ったりして、教師全体で保育しているというチームとしての意識を高め、質の高い保育を目指す。

・新園舎となり、認定こども園化に伴って見直した危機管理マニュアルを、教職員及び給食業者職員全員で共通理解をはかり、園における安全を守り、危機管理意識の向上に努める。

・認定こども園2年目となり、試行錯誤しながら過ごしてきた1年目の反省を踏まえ、教職員のシフト体制を整えたり、職務内容について検討したりして、教職員がより働きやすい体制をつくる。